

富山県

# 南砺市埋蔵文化財分布調査報告 1

— 城端地域 5 —

2006年3月

南砺市教育委員会



城端全景

富山県

# 南砺市埋蔵文化財分布調査報告 1

— 城端地域 5 —

2006年3月

南砺市教育委員会

## 序

南砺市には、国指定の高瀬遺跡や世界遺産にも登録されている相倉・菅沼の合掌造り集落などの貴重な文化財が数多く存在しています。また、遙か太古からの先人の営みも残されており、立野ヶ原台地で旧石器時代の遺跡群が、市内の各所には縄文時代の遺跡が多数確認されています。

このような文化財は、現代に生きる我々が未来へと受け継ぐ財産です。地域で産まれ、育まれてきた文化財は保護・活用することで地域の発展に貢献すると考えております。市内に残された遺跡は市の歴史を語るうえで他に変えることのできない貴重な資料であり、大切な文化遺産です。

市教育委員会では遺跡の把握、保存に努めるために詳細分布調査を行っています。市内の遺跡地図を充実させることは、今後の遺跡の保存と整備に欠かせません。

この報告書が今後の学術研究や、郷土の歴史を知るための参考となり、文化財保護に対する理解の一助になりましたら幸いです。

最後に、調査の実施にあたり、多大なご協力とご理解をいただきました地元の方々、関係者の方々に深く感謝申し上げるとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年3月

南砺市教育委員会  
教育長 梧桐角也

## 例　　言

1 本書は南砺市教育委員会が国庫補助をうけて実施している、市内遺跡詳細分布調査（2005年度）の調査報告である。

2 調査は富山大学考古学研究室の協力を得て、南砺市教育委員会が主体となり実施した。

3 今年度の調査は、南砺市城端・大鋸屋地区（城端・大宮野・瀬戸・盛新・中尾・大谷島・大鋸屋・打尾・泉沢・林道）を対象とした。調査期間は次のとおりである。

平成17年10月15日～11月7日

4 調査事務局は南砺市教育委員会文化課におき、文化財係長林浩明が調査事務を担当し、文化課長上田一郎が総括した。調査担当者は次のとおりである。

調査担当者　南砺市教育委員会文化課 文化財保護主事 宮崎順一郎

5 現地調査にあたって、城端・大鋸屋地区の方々に多大なご協力、ご理解を得た。現地調査員は富山大学考古学研究室のご協力を得た。調査参加者は下記のとおりである（敬称略）。記して深く感謝したい。

福沢住典　間野　達　久保浩一郎　小林高太　佐藤浩志　高橋彰則　東良明　伊藤剛士　岡島怜子  
久慈美咲　黒木　甫　福西廣衣　用田聖実　村上しおり　赤座裕子　北村志織　竹中庸介　柄堀哲彦  
松岡治奈　皆川恒子　吉田有里

6 資料の整理、本書の編集と執筆は、調査担当者が行った。

7 調査期間中および本書の作成にあたっての遺物整理参加者は下記のとおりである。

石崎三枝子　鍛治麗子　西川和美

8 採集遺物および記録図面は、南砺市教育委員会が保管している。

9 本書の挿図・写真図版の表示は次のとおりである。

(1) 方位は真北である。

(2) 挿図の遺物実測図の縮尺は1/3に統一した。

(3) 写真図版の遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。

## 本文目次

序 文	
例 言	
目 次	
I 位置と環境	1
II 調査の経過	2
III 調査の概要	4
1. 遺跡と採集遺物	4
2. 遺物の散布状況	6
3.まとめ	7
参考文献	8
図 版	
写真図版	

## 図版目次

第1図 南砺市位置図
第2図 羽奈地区割図(1/100,000)
第3図 2005年度調査地区概要図(1/20,000)
第4図 2005年度調査結果概要図(1/15,000)
第5図 縄文時代の遺物散布状況(1/20,000)
第6図 古代の遺物散布状況(1/20,000)
第7図 中世の遺物散布状況(1/20,000)
第8図 近世・近代の遺物散布状況(1/20,000)
第9図 遺物実測図(1/3)

## 写真図版

図版1 城端航空写真(平成12年)
図版2 城端航空写真(昭和36年)
図版3 調査風景
図版4 遺跡全景
図版5 遺跡全景
図版6 遺跡全景
図版7 遺跡全景
図版8 遺跡全景
図版9 遺物写真

# I. 位置と環境

南砺市は富山県の南西端に位置し、西は石川県金沢市、南は岐阜県飛騨市や白川村に隣接している。山間部は、白山国立公園に指定され、すぐれた自然景観を残しており、庄川や小矢部川の流れる平野部は水田地帯として、また、「散居村」として知られている。面積は668.86平方kmで東西26km、南北39kmに広がっている。

旧城端町域は南砺市の中央部に位置しており、その地形は東南側に高清水山から袴腰山に連なる高清水山地、西側に医王山・黒澤山を有する山地と、この山地を開析して北流する山田川流域の扇状地にわけられる。

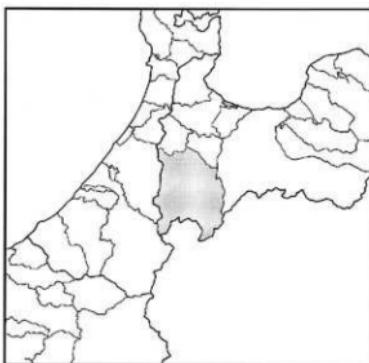
庄川上流にある五箇山集落との間には新旧5カ所の軒道が発達しており、古くから山間部と平野部の中間交易の町としての重要な役割を果たしていた。

扇状地は山田川の浸食を強く受け、台地状の段丘平野になっており、旧福光町との境界に広がる最上面の立野ヶ原台地、山田川左岸の中段面、山田川右岸の下段面と3段に区分できる。

立野ヶ原台地には旧石器時代の遺跡を中心に144か所の遺跡が点在しており、立野ヶ原遺跡群と呼ばれている。めのうや鉄石英が豊富で、それらを利用した石器製作場所がいくつか確認されており、富山県内で最も古い遺跡群の1つとして知られている。中段面は打尾川、池川、二ッ屋川、細谷川などの開析を受けていくつかの深い谷を作っており、市街地や集落の多くがこの面に位置している。戦国時代末期から江戸時代にかけておこった城端別院善徳寺を中心とする門前町は、山田川と池川によって開析された段丘上にあり、段丘崖と河川によって孤立された天然の要害とも言うべき地点に発達している。中段面より5~20mの比高差を持つ下段面には繩文時代中~後期の西原遺跡や中世の金戸館跡などの遺跡が存在する。

今年度の対象地域は、城端・大鋸屋地区（城端・大宮野・瀬戸・盛新・中尾・大谷島・大鋸屋・打尾・泉沢・林道）である。この地域は、中世に北野・糞谷地区とともに直海郷（後の能美郷）として開けていた。直海郷は、砺波郡南部地域に成立した円宗寺の所領石黒莊の一郷であり、五抵家の一つである鷹司家の領地であった。鷹司家の支配は室町後期までは続いていたとみられるが、その後は史料が断たれ直海郷との関係も不明である。

城端地区には真宗大谷派の別院善徳寺がある。善徳寺は城端城主荒木大膳の要請で福光より招致され、城門等の寄進をうけて現在地に移建したとされている。その年代は永祿2年（1559）とも元亀3年（1572）ともいわれている。城端の町はこの善徳寺の寺内町・門前町として開かれた。また井ノ口及び山田から市が移転し、善徳寺門前付近である東上・西上町地内に新しく六斎市が立てられ、市場町としても成立していた。天正13年（1585）には北野村に市が立てられたが、城端の六斎市の勢力に押され、次第に市は衰退し、慶長9年（1604）年に廃止された。かわりに下町地内に七日の市が開かれ、以後、善徳寺門前を中心に発展していった。



第1図 南砺市位置図

## II. 調査の経過

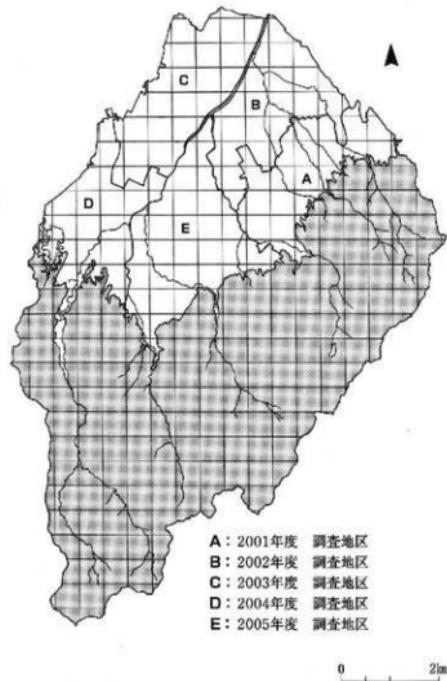
平成5年3月に富山県埋蔵文化財センターが発行した『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』には、南砺市城端地区で77か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が記載されている。しかし、これらの遺跡は古い伝承によるものや開発行為によって発見されたものが大部分であり、これまで系統だった遺跡の分布調査は行われていない。しかし、ここ数年、開発行為に伴って行った分布調査や発掘調査によって新たに発見された遺跡がいくつかあること、また、遺跡が全く確認されていない未調査地区もあることから、詳細な分布調査を行うとした。

調査は南砺市が国庫補助を受け、富山県埋蔵文化財センターと富山大学考古学研究室の指導・協力を得て進めることとした。旧城端町域の平野部を5地区に区分し、平成13年度から5ヵ年の予定で実施することとし、その後市内の未調査地区に拡大する（第2図）。調査には1/5,000の地形図を持参して現地踏査を行い、その成果は年度ごとに報告書にまとめ、公表する。

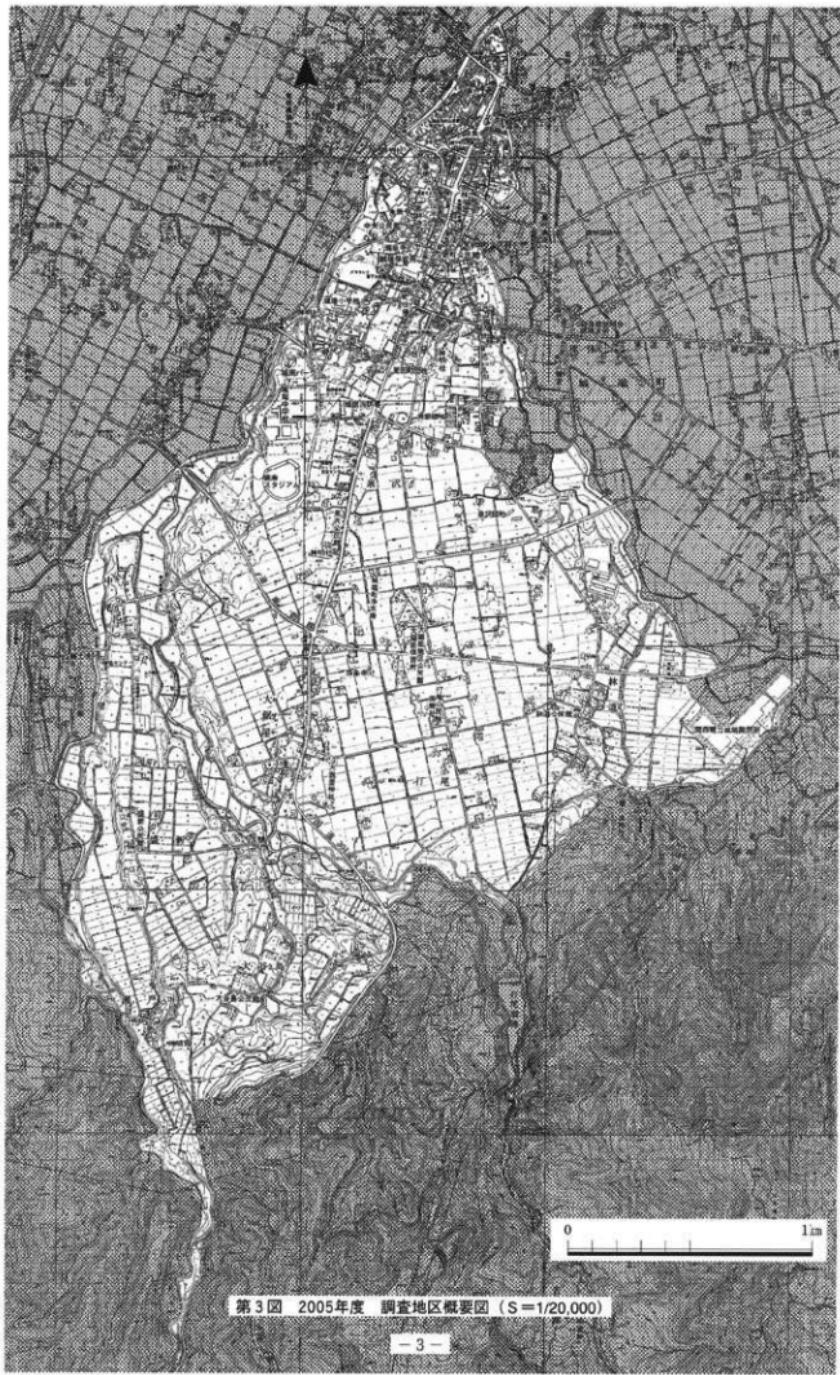
昨年度は旧城端町の北西に位置する南山田地区上口を調査し、新たな遺跡を1か所発見している。

今年度の調査対象地は、旧城端町の中心街から南部に広がり、五箇山へと通ずる城端・大鋸屋地区（城端・大宮野・瀬戸・盛新・中尾・大谷島・大鋸屋・打尾・泉沢・林道）である（第3図）。

調査期間は平成17年10月15日から11月7日である。



第2図 調査地区割図 ( $S=1/100,000$ )



第3図 2005年度 調査地区概要図 (S=1/20,000)

### III. 調査の概要

#### 1 遺跡と採集遺物

今回の調査対象地は、平成5年3月発行の『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』に13の遺跡が記載されている。遺跡位置図は第4図、採集遺物は第9図に示した。

##### (1) 城端城跡 210003 (第4図の1) 周知

城端市街地の中心部付近に位置し、善徳寺およびその五か寺である真覚寺・恵林寺・伝栄寺の境内地が含まれる。範囲は東西約120m・南北約240mで、標高は約136mである。

城端城は在地の土豪荒木大膳（善太夫または六兵衛ともいう）の居城とされている。善徳寺蔵の「由緒略書」、「善徳寺由来」等によれば、善徳寺は城端城の城門等の寄進を受けて福光から移建したとあり、守坡は城端城跡とされている。「越登賀三州志」の「故墟考」によると、城跡は城端町の南であるとの記述があるが、城の規模は不明となっている。城端城については、いまだ判然としない点が多く詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

##### (2) 城端中学校北側遺跡 210005 (第4図の2) 周知

城端中学校の跡地である城南パーク北側、県道才川七城線沿いに位置する。範囲は東西約100m・南北約150mで、標高は約150mである。縄文時代の遺跡であるが発掘調査履歴もなく散布地であるため、詳しい性格はわかつてない。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

##### (3) 盛新遺跡 210061 (第4図の3) 周知

盛新集落の中心部に位置している盛新公民館の北約400m、二ッ屋川と打尾川に挟まれたかたちで立地している。範囲は東西約100m・南北約110m、標高は約200～204mである。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため、詳しい性格はわかつてない。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

##### (4) 潤戸A遺跡 210062 (第4図の4) 周知

潤戸集落の北東に位置し、盛新との集落境に立地する。範囲は東西約100m・南北約120mで、標高は約248～250mである。住民への聞き取り調査によると、昭和30年代に暗渠排水工事において地下1mから土器が出士したといわれている。しかし発掘調査も行われておらず、詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

##### (5) 潤戸B遺跡 210063 (第4図の5) 周知

潤戸A遺跡の南、潤戸C遺跡と挟まれたかたちで立地し、潤戸集落の東に位置する。縄文時代の遺跡である。範囲は東西約140m・南北約170mである。標高は約250～255mである。発掘調査が行われていないため詳細は不明である。

今回の調査では近世の陶器8片採集した。いずれも藏骨器の壺と皿である。

(6) 大谷島南遺跡 210064 (第4図の6) 周知

大谷島集落の南西端に位置し、瀬戸C遺跡の北東に立地する縄文時代の遺跡である。範囲は東西約100m・南北約90mである。大谷島は昭和22・23年ごろに開拓地として入植したのが始まりとされている。その開墾当時には縄文土器片や石器がよく出土したことであるが、その後発掘調査は行われておらず、遺跡の性格などは不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(7) 瀬戸C遺跡 210065 (第4図の7) 周知

瀬戸神明宮がある丘陵地の南部分一帯に広がり、範囲は神明宮を含み東西約240m・南北約310mである。標高は約255~270mをはかる。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため時代や性格は不明である。

瀬戸神明宮は口伝によると、当初二ッ屋川を挟んで西側の台地に建立されていたが、文政3年（1820）に現在地に移されたという。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(8) 大谷島遺跡 210066 (第4図の8) 周知

大谷島集落の中心部に立地し、範囲は東西約140m・南北約240mである。標高は約235~245mをはかる。遺跡は大谷島南遺跡と同様に、昭和20年代の入植の頃に縄文土器片と石器が出土したことである。発掘調査が行われていないため、詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(9) 大鋸屋A遺跡 210067 (第4図の9) 周知

城南スタジアムの西側、山田川沿いに立地する。範囲は東西約100m・南北約150mで、標高は約165~175mをはかる。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(10) 大鋸屋B遺跡 210068 (第4図の10) 周知

大鋸屋A遺跡から南へ約200m、大鋸屋C遺跡と並んで立地する。範囲は東西約110m・南北約130mである。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(11) 大鋸屋C遺跡 210069 (第4図の11) 周知

大鋸屋B遺跡の南西約100m、二ッ屋川沿いに立地する。範囲は東西約130m・南北約130mである。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(12) 大鋸屋D遺跡 210070 (第4図の12) 周知

大鋸屋C遺跡から道路を挟んで南約150m、二ッ屋川沿いに立地する。範囲は東西約140m・南北約140mである。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(13) 大鋸屋南遺跡 210074 (第4図の13) 周知

大鋸屋集落の南端、国道304号と打尾川に挟まれたかたちで立地する。範囲は東西約170m・南北約100mである。遺物散布地であり、発掘調査も行われていないため詳細は不明である。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(14) 墇の坂遺跡 210077 (第4図の14) 周知

大鋸屋南遺跡より打尾川を挟んで南側の丘陵地一帯に立地する。範囲は東西約500m・南北約450mである。『城端町史』によると、元中年間(1384~1392)に新田義貞の臣畠六郎左衛門の裔畠玄条が、五か山より出て大鋸屋地内の三か所に居を構え、その内の高桑五右衛門が建てた館跡とされている。付近一帯には「的場」、「城」、「城の南」、「城の渡し」などの古跡が残っている。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(15) 善徳寺前遺跡 210078 (第4図の15) 周知

旧城端町の中心街に立地し、範囲は西上町・東上町・西下町・東下町・大工町・出丸町の6か町にまたがっている。東西約350m・南北約750mをはかる。池川と山田川によって形成された河岸段丘上に位置し、孤立された天然の要害とも言うべき場所に存在している。標高は約136~140mで南から北にかけて傾斜している。これまでの発掘調査により、寛宗大谷派城端別院善徳寺を中心に広がる門前町、または六斎市・九斎市を中心には開けた市場町であり、16世紀末から現在まで続いている集落遺跡であることがわかっている。

今回の調査では遺物を採集できなかった。

(16) その他の採集遺物

石製品1片、須恵器1片、珠洲焼13片、近世陶磁器類109片を採集した。そのうち15点を図示した。1は磨製石斧である。蛇紋岩製で刃部は欠損している。2は須恵器の壺である。外面にタタキ目、内面には同心円状のアテ具痕が残る。3~15は珠洲焼である。3は壺の口縁部で珠洲編年のV期にあたる。4~14は壺堀類である。15は鉢である。

## 2 遺物の散布状況

今回の調査で採集した遺物の総数は124片である。その内訳は時期別に縄文1、古代1、中世13、近世・近代が109である。散布状況は城端町都市計画座標をもとに1辺200mの包含を設けて示した。

(1) 縄文時代の遺物散布状況 (第5図)

採集遺物は大鋸屋集落で発見した石器1点である。調査地区には旧石器時代と縄文時代の遺跡が存在しているが、いずれも遺物散布地であり、発掘調査は行われていない。大谷島集落は、開拓当時の昭和22・23年ごろに縄文土器片や石器がよく出土したらしいのだが、今回の調査では採集できなかった。これは昭和50年に完了した土場整備の影響と考えられる。

#### (2) 古代の遺物散布状況（第6図）

須恵器1片を採集した。調査地区に古代の遺跡は存在していない。

#### (3) 中世の遺物散布状況（第7図）

珠洲焼を13片採集した。散布状況はまばらである。

今回の調査地区は中世から直海郷として開けており、鷹司家の領地であったとされ、戦国時代末期には善徳寺が招致されて城端城の領地内に移建したといわれている。その後、善徳寺の寺内町・門前町として城端の町が開かれた。このことから、中世には集落が形成され始め、本格的に展開していったと考えられ、その間遺跡として城端城跡、善徳寺前遺跡、壇の坂館跡が存在している。

#### (4) 近世・近代の遺物散布状況（第8図）

陶磁器類が109片である。調査地区のほぼ全域にわたって遺物の散布が見られる。

近世の代表的な遺跡として善徳寺前遺跡があげられる。この遺跡は中世から続く町屋跡で、城端市街地のほとんどを占める。市街地の町並みは、18世紀の城端町古絵図と見比べても当時とあまり変わっていないが、平成9年度から行われた国道304号の拡幅により、現在は景観が一変している。

### 3まとめ

今回の調査地区は、旧城端町の中心部である城端地区と、そこから南へと広がる大鋸屋地区であり、山田川と池川によって形成された段丘上に位置している。城端、大鋸屋両地区ともに中世には直海郷として開けており、城館遺跡も確認されている。戦国時代末期には善徳寺の寺内町・門前町として成立しており、市場町として周辺村落と交易し、五箇山と砺波平野を結ぶ交通の要地となっていた。

この地区に存在する遺跡は15か所確認されているが、ほとんどが未調査の遺物散布地で詳細は不明である。発掘調査を行われたは善徳寺前遺跡だけである。

今回の調査で採集した遺物は124片である。繩文時代から近世を通じて散布していたが、その大半は中世以降の遺物で、弥生から古代の遺物はほとんど確認できなかった。新たな遺跡は発見できず、また周知の遺跡から採集した遺物もほとんどないので遺跡の内容を充実するには至らなかった。

旧城端町では、昭和37年度から町内全域を対象とした大規模な土地基盤整備事業が進められ、57年度には場整備事業と構造改善事業が完了している。その工事の影響によって破壊もしくは未確認の遺跡も存在すると思われる。今後の開発行為により新たに遺跡が発見される可能性もある。

城端地域で開始した詳細分布調査は5年目となり、平野部の調査は完了した。5年間の調査で遺跡は着実に発見され、新規で11か所登録した。南砺市には569か所の遺跡が確認されているが、詳細分布調査を行った地域は限られている。まだ未調査地区が多い中で、城端地域の調査成果は市内の遺跡の把握やその保護に役立つであろう。南砺市が誕生して1年経った。まだ浅い市の歴史を埋めていくには、こうした地道な調査が必要である。

## 遺跡一覧表

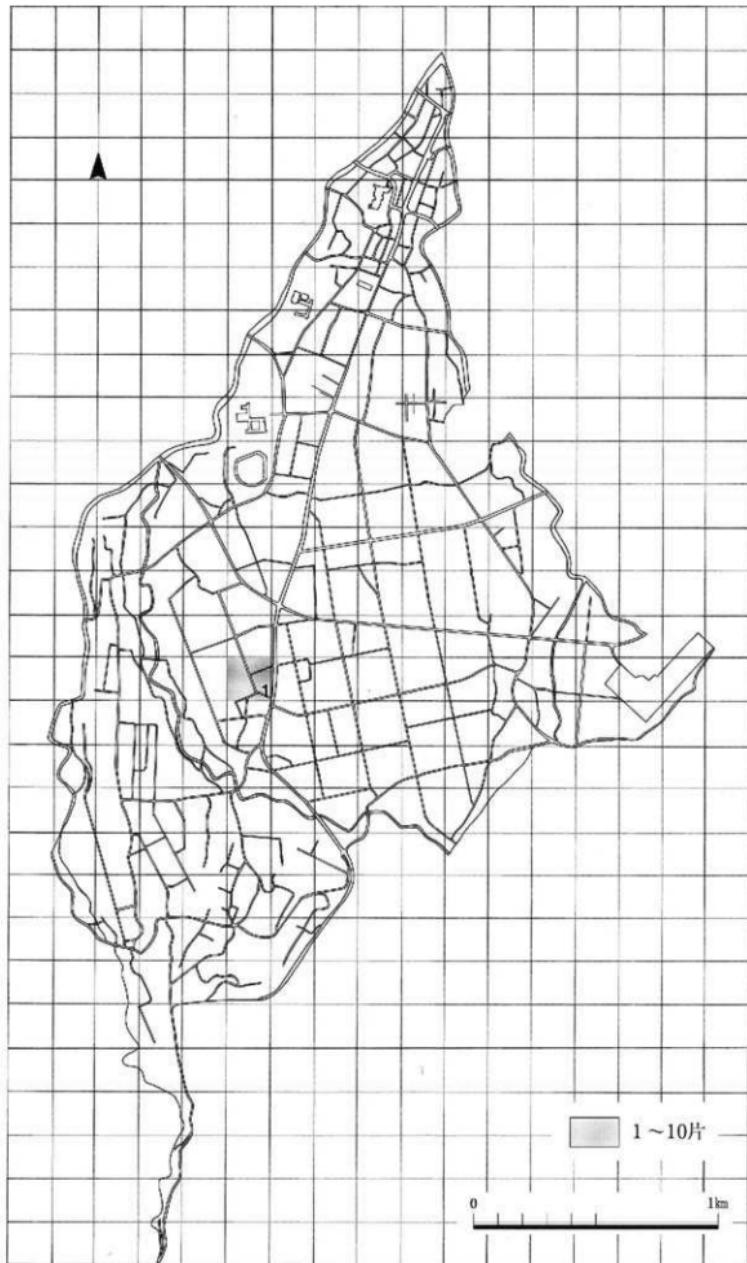
遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	現 況	備 考
1 210003	城端城跡	南砺市城端	城館	中世	境内地	
2 210005	城端中学校北側遺跡	南砺市城端	散布地	縄文	宅地	
3 210061	盛新遺跡	南砺市盛新	散布地	不明	田	
4 210062	瀬戸A遺跡	南砺市瀬戸	散布地	不明	畠	
5 210063	瀬戸B遺跡	南砺市瀬戸	散布地	不明	畠	
6 210064	大谷島南遺跡	南砺市大谷島	散布地	縄文	畠	
7 210065	瀬戸C遺跡	南砺市瀬戸・大谷島	散布地	不明	境内地・畠	
8 210066	大谷島遺跡	南砺市大谷島	散布地	旧石器・縄文	宅地	
9 210067	大鋸屋A遺跡	南砺市中尾	散布地	不明	山林	
10 210068	大鋸屋B遺跡	南砺市中尾	散布地	不明	山林	
11 210069	大鋸屋C遺跡	南砺市中尾	散布地	不明	畠	
12 210070	大鋸屋D遺跡	南砺市大鋸屋	散布地	不明	畠	
13 210074	大鋸屋南遺跡	南砺市大鋸屋	散布地	縄文	田	
14 210077	壇の坂船跡	南砺市大鋸屋	城館	中世(室町)	田	
15 210078	善徳寺前遺跡	南砺市城端	集落	中世(戦国)・江戸	市街地	

### 参考文献

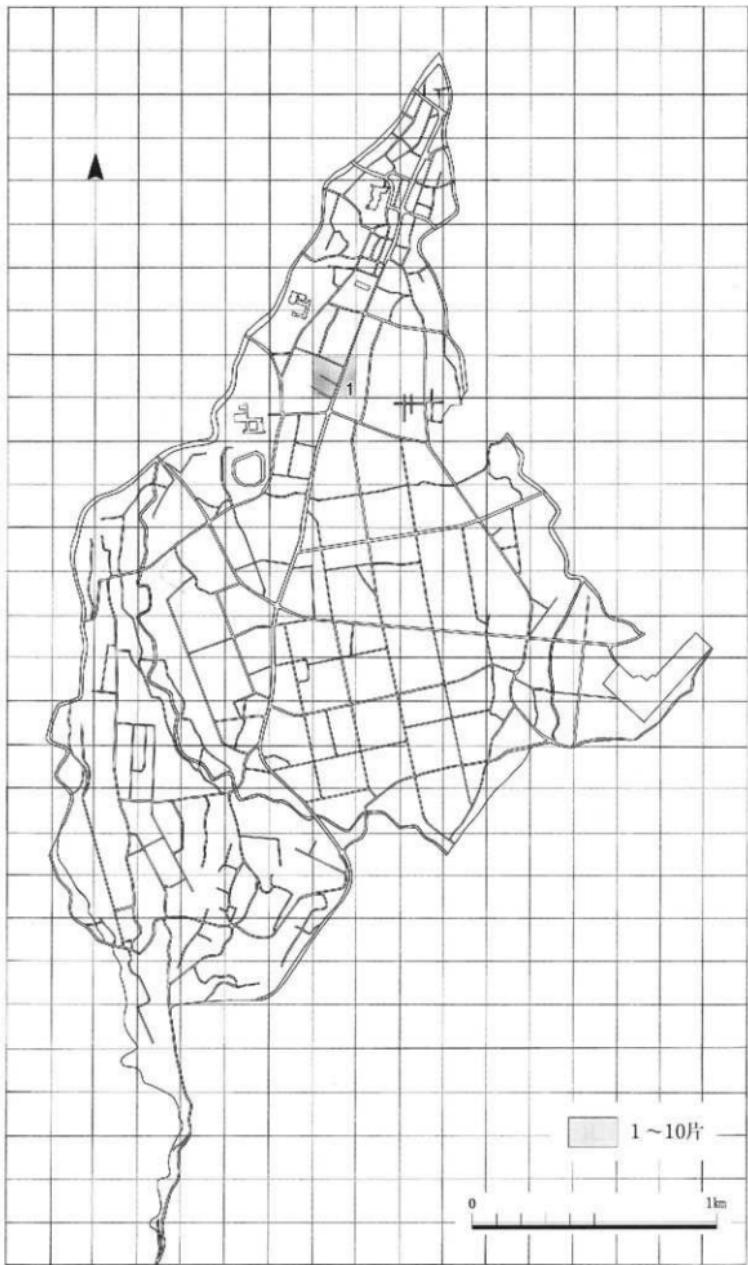
- 城端町 1959 『城端町史』
- 城端町教育委員会 1998 『善徳寺前遺跡発掘調査報告』
- 城端町教育委員会 2001 『善徳寺前遺跡発掘調査報告Ⅱ』
- 城端町教育委員会 2004 『善徳寺前遺跡発掘調査報告Ⅲ』
- 城端町教育委員会 2002 『城端町埋蔵文化財分布調査報告Ⅰ』
- 城端町教育委員会 2003 『城端町埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ』
- 城端町教育委員会 2004 『城端町埋蔵文化財分布調査報告Ⅲ』
- 城端町教育委員会 2004 『城端町埋蔵文化財分布調査報告Ⅳ』
- 城端町教育委員会 2004 『城端町の歴史と文化』
- 珠洲市立珠洲焼資料館 1989 『珠洲の名陶』
- 富山県 城端町 1979 『城端全城にわたるは場整備事業誌』
- 富山県埋蔵文化財センター 1993 『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』
- 吉岡康暢 1989 『日本海域の土器・陶磁 [中世編]』

第4図 2005年度 調査結果概要図 ( $S=1/15,000$ )

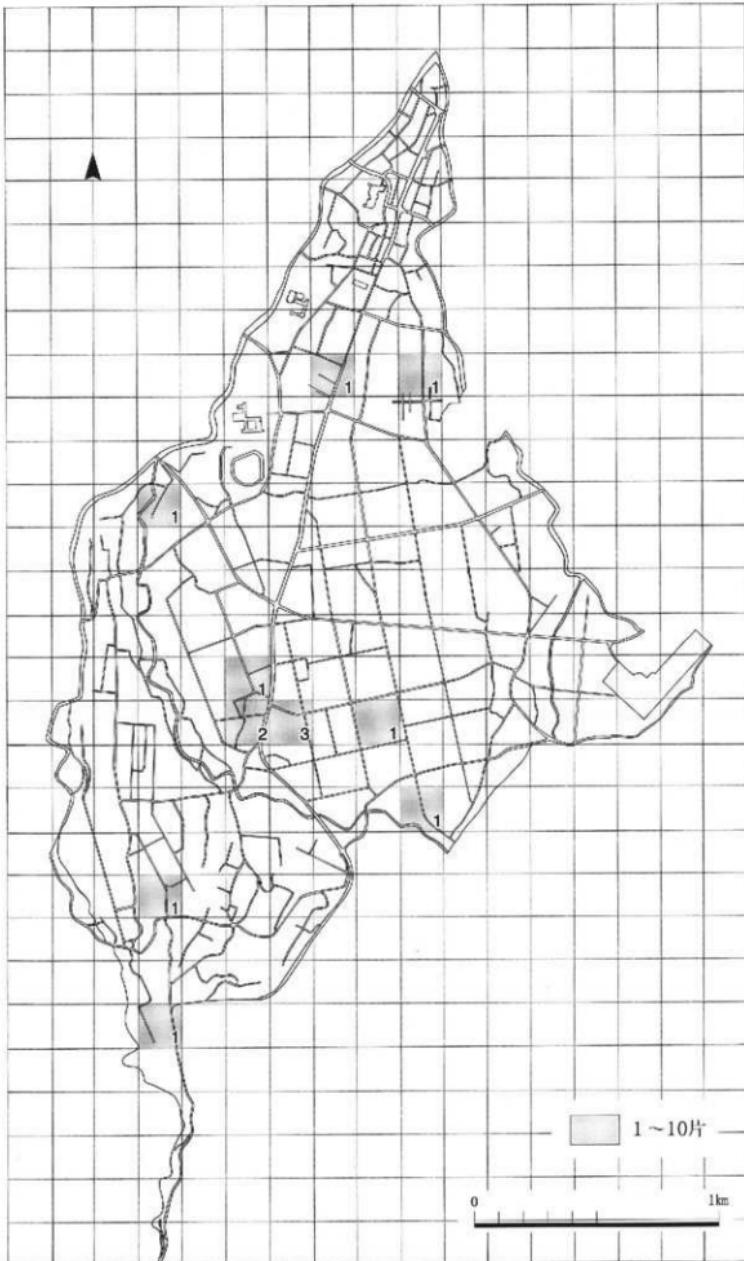




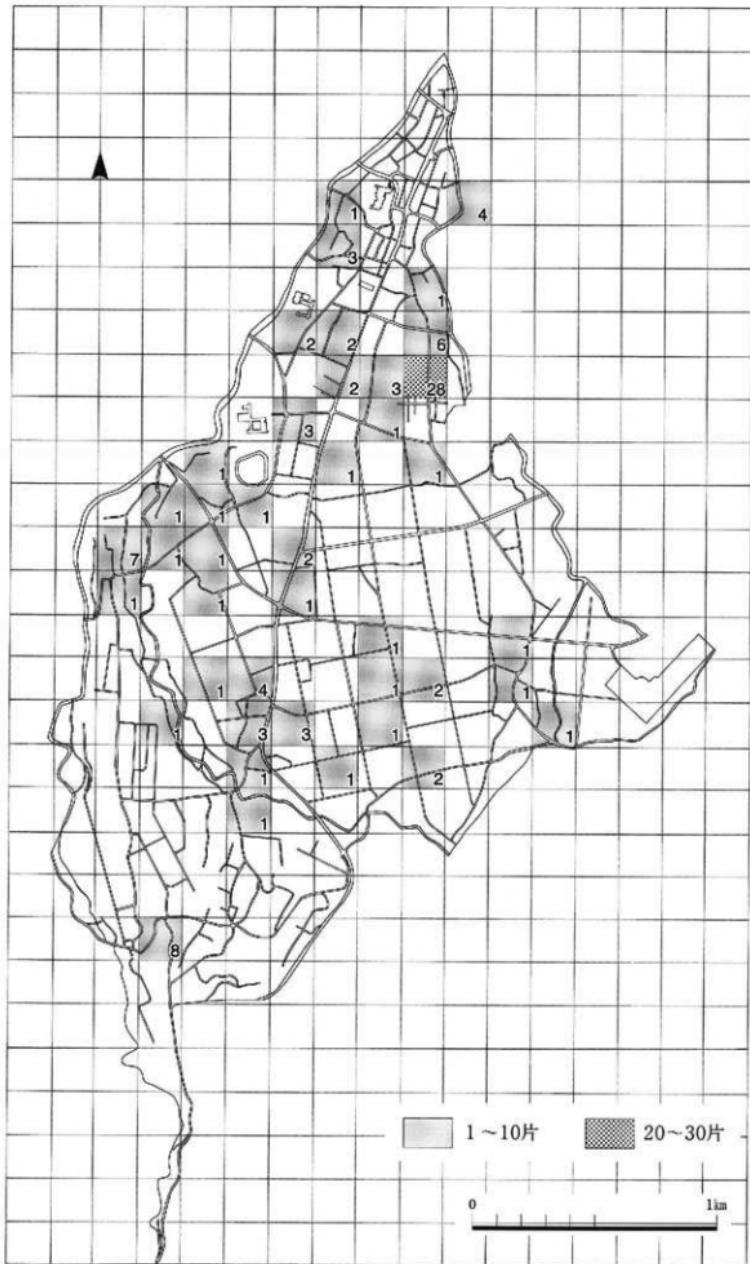
第5図 縄文時代の遺物散布状況 ( $S=1/20,000$ )



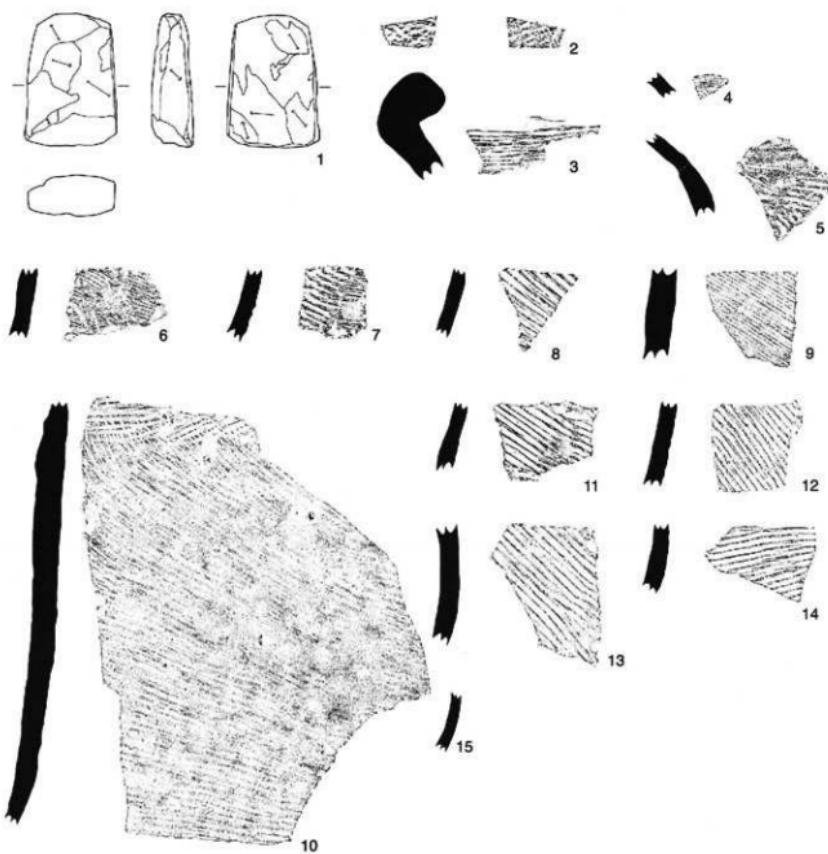
第6図 古代の遺物散布状況 (S=1/20,000)



第7図 中世の遺物散布状況 ( $S=1/20,000$ )

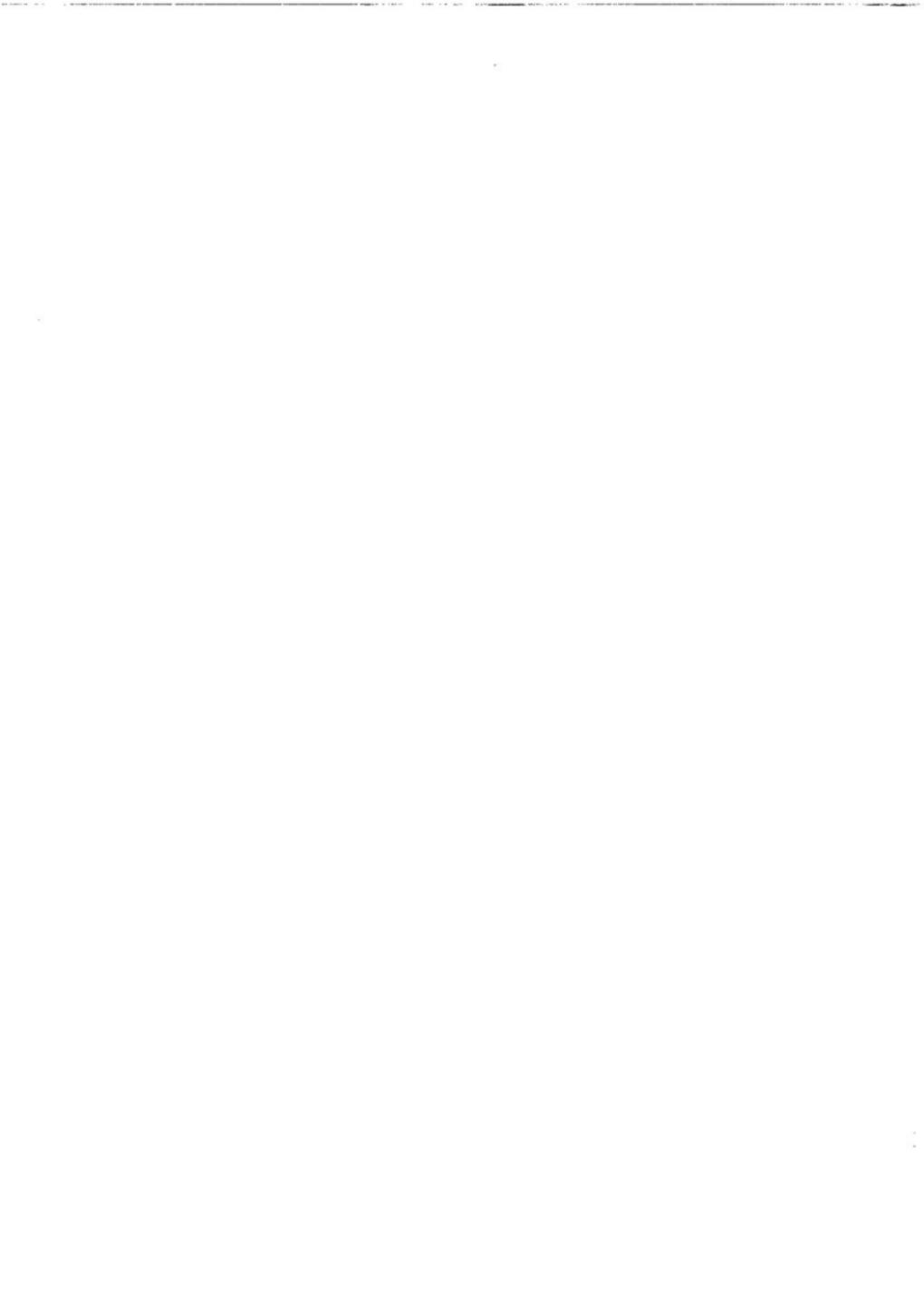


第8図 近世・近代の遺物散布状況 (S=1/20,000)



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

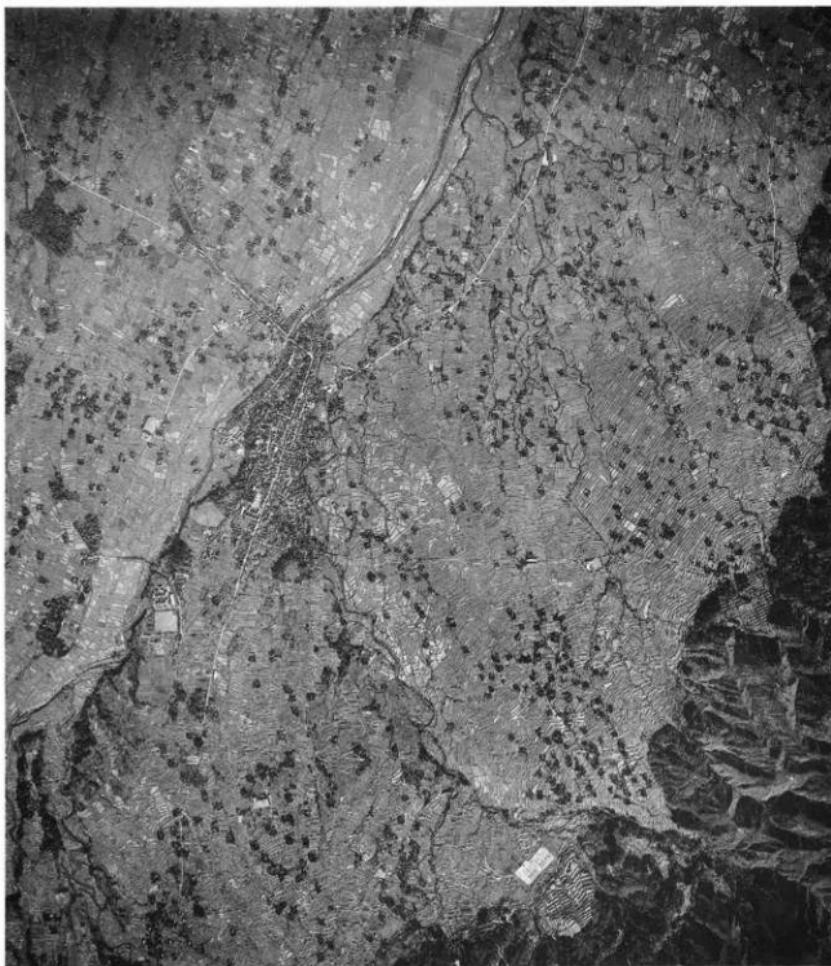
第9図 遺物実測図 (S=1/3)





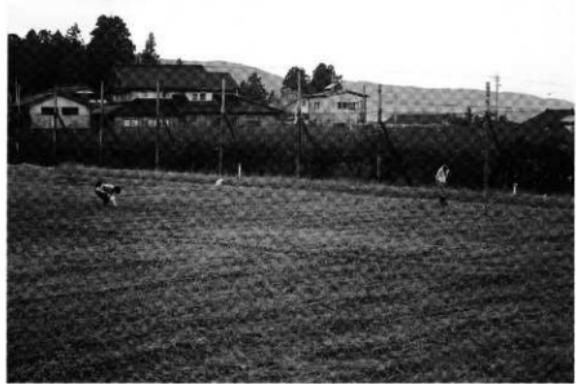
図版1 城端航空写真(平成12年)

「この図は、国土数理统计局の発表を基で、内閣総理府の空間情報を  
複合したものである。(承認番号) 平18七教、2348号」



図版2 城端航空写真(昭和36年)

「この地図は、国土施設課長の承認を得て、測量施設の空中写真を複数したものである。(小説番号) 418 北緯 第346号」



図版3 調査風景



城端城跡



城端中学校北側遺跡



盛新遺跡

図版4 遺跡全景



図版5 遺跡全景



瀬戸C遺跡



大谷島遺跡



大銀屋A遺跡

図版6 遺跡全景



図版7 遺跡全景



大銀屋南遺跡

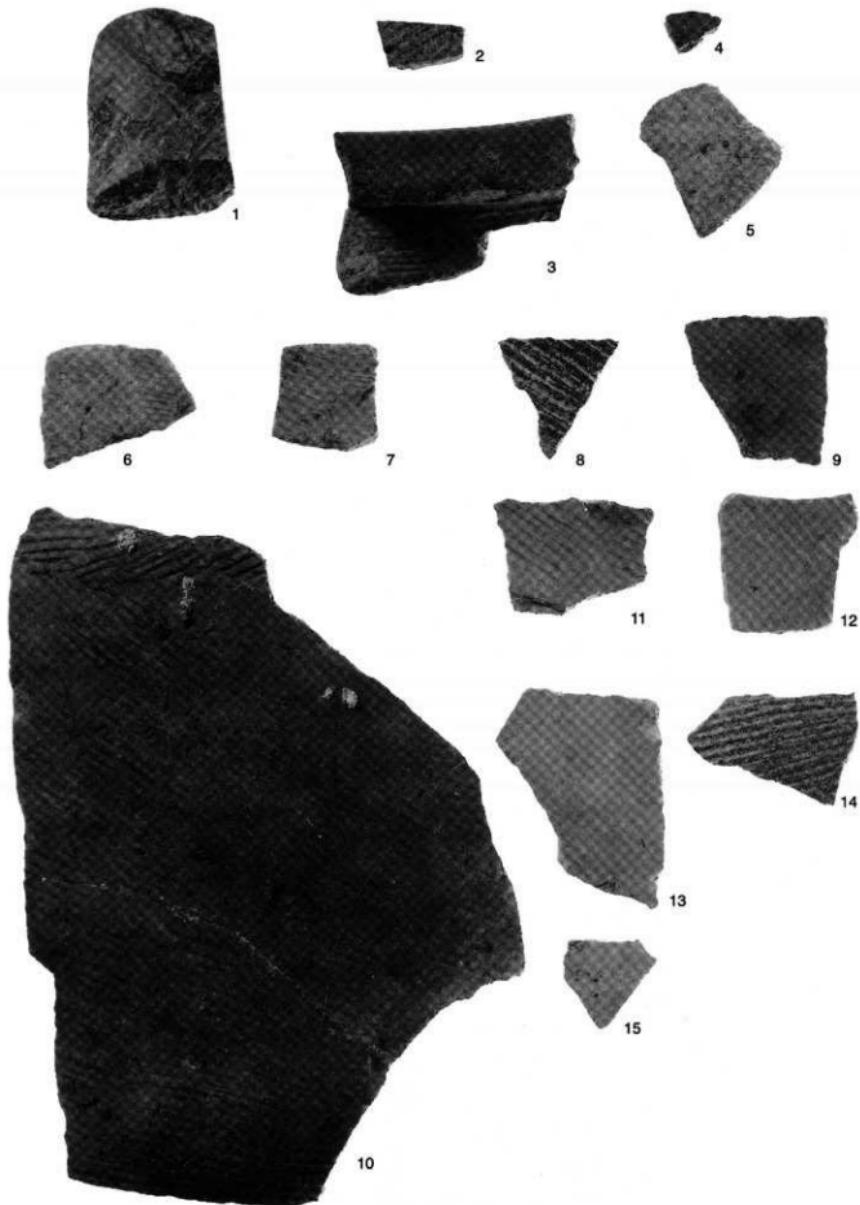


壇の坂遺跡



善徳寺前遺跡

図版8 遺跡全景



図版9 遺物写真

# 報告書抄録

ふりがな	とやまけん なんとしまいぞうぶんかざいぶんぶちょうさほうこくいち じょうはなちいきご
書名	富山県 南砺市埋蔵文化財分布調査報告1 -城端地域5-
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書9
編集者名	宮崎順一郎
編集機関	南砺市教育委員会
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL(0763)23-2014
発行機関	南砺市教育委員会
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波520 TEL(0763)23-2014
発行年月日	西暦2006年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
市内遺跡	富山県 南砺市 地内	16210	-	36° 28' 00"	136° 54' 00"	2005.10.15 ~ 2005.11.07	-	-
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
市内遺跡	-	縄文時代 古代 中世 近世	-	磨製石斧 須恵器 珠洲焼 近世陶磁器		-		

## 南砺市埋蔵文化財分布調査報告1

-城端地域5-

平成18年3月24日

編集 南砺市教育委員会

印刷 牧印刷株式会社

